

自然との共生をめざして—— 高知県梼原町とともに取り組む 森林資源の地域循環

梼原町は、「先人の知恵に学び、自然との共生と循環型社会の実現」という基本理念を軸に、森林との真の共生をめざし、未来の子どもたちに大切な地球環境を残す「森林の再生」に取り組んでいます。

矢崎グループは、梼原町理念や地球環境への想いに共感し、2005年より森林資源の地域循環利用事業を共同で始めました。

本特集では、行政と地域住民と企業が三位一体となって取り組んだ、梼原町における森林資源の地域循環の取り組みと、関係者の皆様の未来への想いを紹介します。

梼原町の紹介

梼原町は、四万十川の源流域に位置し、森林が町面積の91%を占めています。森林の恩恵を受けながら、古くから自然との共生をめざしてきました。この森林は、梼原町独特の伝統や文化に影響を与えると同時に、基幹産業である林業を支えています。

また町内には、日本の夜明けを信じ幕末を駆け抜けた坂本龍馬たちが通った「維新の道・脱藩の道」があります。



梼原町ホームページ
<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/>

梼原町の四季



春
夏
秋
冬

梼原町の伝統・文化・歴史



神在居の千枚田

維新の道・脱藩の道



津野山神楽(国の重要無形民俗文化財)

梼原町における森林資源の地域循環の取り組み

森林資源の適正管理： FSC^{※1}認証取得・利用推進

梼原町森林組合は、地球環境・資源エネルギー循環の時代に向かってグローバルな森林組合への自己改革をめざし、行動指針21「山中八策^{※2}」を定めました。同時に、森林組合として日本初となるFSC認証を取得しました。



FSC認証を取得した森

FSC材を使った梼原町総合庁舎

※1 FSC (Forest Stewardship Council : 森林管理協議会)
国際機関である森林管理協議会の規定にしたがい、「環境に配慮した適切な森林管理」が行われていることを、第三者機関が認証するもの

※2 山中八策
坂本龍馬の船中八策にない、梼原町森林組合が森林再生のための考え方を8つにまとめたもの
梼原町森林組合ホームページ：<http://www.yusuhara.or.jp>

未来へつなぐ人材育成：森林の多目的利用

これまで共同で整備を進めてきた町有の造林地が、森林セラピーロードとして認定されました。このセラピーロードは「OAAO^{※3}ロード」と名づけられ「森のようちえん」などに利用されています。



森林ボランティア協働の森づくり事業(2006年～)

矢崎国内サマーカーンプ(2006年～)



自然のなかで感性を育む「森のようちえん」(2010年～)

セラピーロード認定：OAAOロード(2012年～)

※3 OAAO One for All, All for Oneの略



森林資源の循環：木質バイオマス地域循環利用事業

行政・地域住民・企業が三位一体となり、2005年に木質バイオマス地域循環利用事業を立ちあげ、2008年には「ゆすはらペレット(株)」のペレット工場が稼働しました。森林資源の循環利用をめざし、梼原町の林業の活性化、森林の整備と保全のため、間伐材や製材所の端材などをペレット化し、燃料として活用しています。



ゆすはらペレット(株) ペレット工場



梼原町立梼原学園に設置された木質ペレット焚アロエース^{※4} 梼原町の農家に設置された同型の木質ペレット焚温風機

ゆすはらペレット株式会社 株主構成
梼原町：51%、矢崎総業：35%、森林組合：10%
町内林産組合、JA、商工会など：4%

※4 木質ペレット焚アロエース
木質ペレットを直接エネルギー源とした世界初の吸収冷温水機

自然との共生をめざして—— 高知県梼原町とともに取り組む 森林資源の地域循環

「山中八策」を基本として、 新しい林業の形をつくりあげたい



梼原町
森林組合長
中越 利茂様

木質バイオマスの地域循環利用事業について初めて聞いたとき、これまでにはない発想だったため、新しい林業のあり方に期待を抱きました。事業の立ちあげからペレット製造ラインの改良と一緒に取り組み、ものづくりの会社ならではの技術やノウハウ、着眼点について学ぶことができました。今後も、お互いに助け合える関係を続けていきたいと思っています。

さまざまな町の資源を活かし、

梼原町では、自立した町でありたいとの想いから、エネルギー自給率100%をめざした取り組みを進めています。「木質バイオマス地域循環利用事業」は、このような梼原町の方向性と矢崎グループの考え方が一致始まりました。当初は不安もありましたが、企業のアイデアとスピードがこの不安を払拭してくれました。これからも梼原町は“自立した町づくり”

自立した町づくりに挑戦する

をめざし、森、水、風、光などの自然エネルギーを活かした取り組みを続け、生き物にやさしい低炭素な町づくりを進めてまいります。

梼原町長
矢野 富夫様



地域の基幹産業である 林業を守り続けるために

国内の林業全体として、後継者不足や木材価格の下落などの課題を抱えていることに、林業家のひとりとして大きな危惧を抱いています。現在、梼原町で取り組んでいるさまざまな活動の先頭に立つことで、自分が生まれ育ったこの町の活性化に貢献できればと思っています。また、このことが後継者の育成につながることを期待しています。



梼原町議会議員
林業家
土釜 清様

子どもたちと郷土への誇りを育む



梼原町立
梼原学園校長
堅田 謙洋様

梼原町では、地球環境保全の大切さや町の基幹産業である林業への理解を深め、自然豊かな郷土への誇りを育むことに注力しています。協働の森に設置したカメラを通じて、貴重な生物が身近にいることを実体験した子どもたちは大変驚き、目を輝かせます。このような経験を通し、梼原のよさや森の大切さを子どもたちと共有していきたいです。

住民一丸となって 地域を盛り上げていきたい

町と企業と一緒に取り組む森づくりの活動がスタートしたとき、町の未来が開けたように思えました。また、矢崎の方が何年も駐在されたことで、活動に対する真剣さが伝わり、私自身もできることに挑戦したいとより強く思うようになりました。今では、矢崎国内サマーキャンプなどの行事に地域の人々と一緒に参加しています。これからも住民の想いをひとつにして、地域を盛り上げていきたいと思っています。



梼原町民
(農家民宿)
上田 知子様

森林を育む

森林を活かす

森林を
未来へつなぐ

森林と
ともに生きる

未来に夢と 資源は活用 “もった いない”

活動当初の理念や想いを大切に



矢崎エナジー
システム(株)
環境システム
事業部長
山本 俊一

地域社会との協働には、行政と企業、そして地域住民の皆様が三位一体となって、強い意志を共有することが重要だと考えています。梼原町、地域住民の皆様とともに挑戦できることを光栄に思うと同時に、責任の重さを感じています。50年先、100年先に向けて、まず私が梼原町におけるさまざまな取り組みに懸ける想いをしっかり理解し、一つひとつ確実に取り組んでいきます。

地域社会への貢献を忘れずに

梼原町において事業活動を始めて以来、長きにわたり、非常に多くの方々にご支援、ご協力いただいております。梼原製造所の事業を含め、矢崎グループの事業を支えていただいている地域の存在が、今回の協働の原点となっております。矢崎グループの社是に基づき、これからもさまざまな方と連携しながら、地域社会への貢献に努めてまいります。



矢崎総業(株)
関連子会社
四国部品(株)
社長
片山 誠治